

市民の皆さん、あけましておめでとうございます。

皆さんにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日ごろから市政に対する温かいご支援とご協力をいただき心から厚くお礼申し上げます。

私は、皆さんから 2 期目のご信託をいただいてから 2 年を経過し、任期も折り返し地点を迎ようとしています。

昨年は、高校生レストランのすぐ隣に三笠市文化芸術促進施設 Giel(シエル)を開館いたしました。小さな美術館をコンセプトに、本市にゆかりある芸術家の絵画を展示し、三笠市の芸術文化を広く発信するための施設です。「食」を楽しむ「芸術文化」に触れ、新たな活力となるような場とし、高校生レストランを起点に明るいまちを創り上げていきたいと考えています。

さて、昨年においては、世界全体が変化を求められた 1 年となったと思います。普遍的に続くものと考えていた「日常」は、新型コロナウイルスによって一変しました。人との絆や日々の生活の尊さに改めて思いを致すとともに、日常を取り戻すため、感染防止策の徹底と、これを見据えた社会経済活動の両輪を動かすことが大事だと考えております。国際的には、アメリカ大統領選挙が行われ、アメリカ国民は、「米国第一主義」から「協調」の時代を選び、日本においても前首相の長期政権から菅政権へと移り変わり、今まさに世界的な潮流が変わろうとしています。

そして、世界的な潮流と連動するかのようになり、気候も大きく変わり、わがまちにおいても雨や雪の降り方が極端になってきていると痛感しているところです。いま一層、気候の変化に対応した防災対策とともに、コロナ禍における避難対策を充実し、治水対策も強化するため、新桂沢ダム、三笠ぽんべつダムの早期完成を関係機関に要望してまいります。

本市においても、新型コロナウイルスによって、地域経済に大きな影響が生じており、また、様々な行事や地域活動が中止となるなど、人との絆やふれあいを創出する貴重な機会が失われていきました。このような逆境の時こそ、市民の皆さんの安心に繋がるような対策をと、市立病院において、いち早く PCR 検査の体制を整えていただき、感染症対策をしっかりと行うとともに、プレミアム商品券の発行などによる市内経済の底上げを行ってまいりました。今後も必要な対策を講じ、市民の皆さんの安心・安全を図ってまいります。

また、大きな課題となっております「養豚場の臭気問題」については、環境審議会でも臭気基準の協議を行い、早期解決に努めているところでございますが、事業者から大規模改修や移転を検討しているとの相談もありましたので、今後、事業者とも協議を進めていきたいと考えています。また、「市立病院の運営」に

については、地域医療の確立に向けて、職員、市民、団体、議会議論を重ねたうえで、方向性を定め、身の丈に合った市立病院を目指して取り組んでいきたいと考えております。

今年の干支は「ウシ」です。ウシは大変な農作業に耐え、作物を育てる土地を耕す生き物であることから、ウシ年は忍耐強く課題に取り組み、発展の芽が出る年になると言われております。

その発展の芽として、石炭の地下ガス化の研究について、室蘭工業大学と連携し、研究を重ねておりますが、昨今、国際的に脱炭素化が進んでおり、環境に配慮したエネルギーとして、水素の活用が着目されてきております。このことを受け、地下ガス化で発生する水素の活用に力を入れ、新エネルギー事業の実用化を目指し、まちの活性化の起爆剤となるように進めていきたいと考えております。これまでの課題にしっかりと向き合うとともに、限られた財政状況で何をすべきか、今こそ私がまちづくりの原点と考えている市益、市民益を基本に行政判断を行い、まちづくりの新芽が芽吹き、花咲く1年となるよう、頑張っていきたいと思っております。

今年は当市の前進である「市来知村」が明治15年に誕生してから140年という記念すべき年です。開庁140年を記念して先人の歴史を引き継ぎながら明るい未来を目指すまちとして、節目の年を皆さんと共に祝いしたいと思います。

市民の皆さんの更なるご理解とご協力をお願いするとともに、本年が三笠市にとりましても、皆さんにとりましても、夢と希望に溢れる素晴らしい年となりますよう祈念し、年頭のごあいさつといたします。